



～自らを含めた命の循環を考えよう!～

伊沢正名さん 講演会

1950年、茨城県に生まれる。1970年より自然運動をはじめ、1975年から独学でキノコ写真家の道を歩む。同時に1974年より野糞をはじめ、1990年には伊沢流インド式野糞法を確立。2003年には1000日続けて野糞をする千日行を成就。2007年、「野糞掘り返し調査」を取行し、それまで誰も見ようとしなかった、ウンコが土に還るまでの過程を生々しく記録した。

著書「く・ねるのぐそ」(山と溪谷社)より抜粋
ブログ <http://nogusophia.com>

ひと

トイレでせず10年

伊沢 正名 さん(60)



「世間」一般の常識人」である妻田子さん(61)は「愚いだけでなく説得力を」と原稿や講演に目を光らせる。「世の中このバランスをとって批判する彼女がいてこそ」

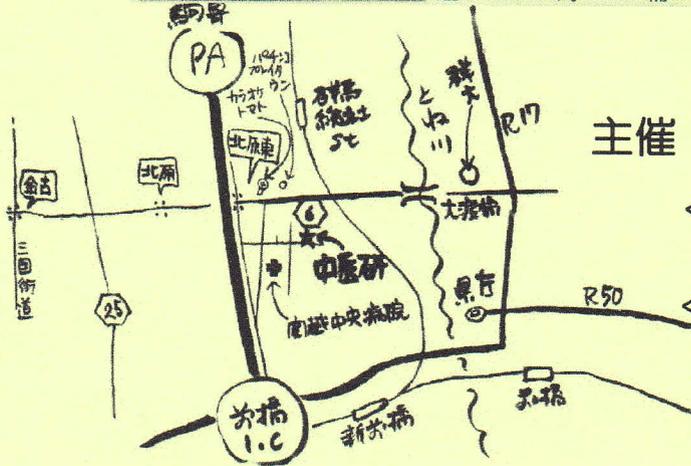
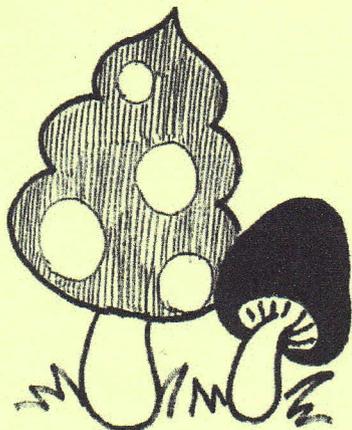
「近所は嫌なほど身勝手」と怒り、処理に大量の水や熱を使うことも知った。「せめて自分のものには責任を持とう」と思い立った。

庭や裏山で穴を掘って埋め戻し、薬つぼでよく、「小」は草木を枯らすので早々に断念した。街に出る時は排泄のタイミングをずらし、旅先では「候補地」を下調べ。原生林や沢は避け、同じ場所には一年以上しない。場所や頻度を記録し、土に還る時間も追跡調査した。「自然の循環に自らを組み込もう」と説く。

キノコの生き方にほれ込み、写真家に、3千種以上のキノコ、コケ、菌類を撮影し、出した図鑑類は30冊以上。長年の写真家の肩書を捨て、いまは「糞土師」を名乗る。「口に入れる物には神経質な時代。出す方にもっと目を向けたい」と選り抜いた薬つぼと小さなシャベルを手に、今日も外へ。

文 高地ゆう 写真 古川透

朝日新聞 2010年5月24日



主催 未来にちにち堂

<中医研>
高崎市北原町25-3

<問い合わせ>
田中 080-6676-4916